

阿武山学園 基本理念

【児童の自立支援に向けて】

- 強きよりも、賢きよりも、まことなる人とならんと

力関係に頼る人よりも、抜け目ない要領の良い人よりも、嘘、偽りのない誠実な人になるように児童の人間性を育成する。

【施設の雰囲気】

- 和やかな中にも「凛とした雰囲気」を醸し出した児童の自立支援を展開

人格形成の場である児童自立支援施設の雰囲気は、自然・物的・人的環境の相互関係が児童の健全育成を図るにふさわしい、生活感、温かさ、抱擁力、信頼感、感謝と権威のあるものにする。その雰囲気は、児童にとって「安心・安全を感じる住み心地のよい場所である」こと、職員は一人ひとりの児童が自分を大切にし、自分の生き方に責任をとろうとする態度を形成していくように児童の自立支援活動を行う。

【施設運営について】

- 「育て直し」による人間信頼の回復と「関係性」を重視した運営（信頼関係の確立）

学園の「育て直し」の支援のもと、自分が大切にされることを感じた児童は、少しずつ、他者を信頼できる力が備わり、不信感を減らし、人間信頼の回復にむかうことができる。このように、児童自立支援施設では関係が教育するといわれる。

【施設職員として】

- 一人の人間として自己成長を図り、本職として自覚と責任を備えた自立支援

学園の全職員は、児童の自立支援に携わる者として、常に児童の立場に立ち活動するとともに、施設職員である前に一人の人間として自己の成長を図り、当たり前のことを当たり前に行う。

また同時に、専門家として児童間や児童・職員間の関係を読み解き「褒めること」「叱ること」は高度な専門技術であることを自覚し、不退転の決意をもって責任を果たす職員として、児童の自立支援を行う。

阿武山学園 基本方針

- **非暴力・脱暴力を徹底し、児童が安心・安全・信頼を実感できる施設運営の実践**

人間関係において、暴力による解決ではなく自分の気持ちを認め、相手の気持ちを理解することを徹底する。そして、児童が安心・安全を実感でき、人との信頼関係を育む施設運営を行う。

- **小舎夫婦制を基本とした「共に暮らす教育」の実践**

家庭的な温かい雰囲気のもとで、児童と職員が一つ屋根の下に住み込み、人間的で温かな関係づくりを目指す。また、家庭的な生活体験を積むことより、児童の考え方や行動に影響を与えて、児童の変容を促す教育を行う。

- **心理的な発達及び社会的規範の再構築（育て直し）の実践**

職員とのふれあいや自立支援活動を通じて、傷ついた「心（気持ち）」を癒し、心身の健康の回復、自信の回復、未熟性の克服、及び社会性の習得などの「育て直し」を行う。

- **一人ひとりの自主性・自律性を尊重し、「がんばる」ことを支援する実践**

個々の性格や特性を踏まえ、児童ができることや自己コントロールを重んじ、自己実現や自己決定の過程を支援する。

- **児童の権利擁護を基本とした施設運営の実践**

児童との対話を基本とし、児童の最善の利益が優先される施設運営を行う

○阿武山学園の生活指導について

- (1) 子ども一人ひとりを大切にする支援
 1. 「個」を伸ばし、「個」が大切にされる生活
 2. 事故退所者、途中引取り者を無くす努力
 3. 家族支援により、親と子どもの愛着関係を修復
- (2) 子ども一人ひとりのニーズに寄り添った支援
 1. 職員が心からの願い(心願)を持った支援
 2. 前向きな生活を目指しながら、児童との対話を重視する支援
- (3) 子どもに力がつく、厳しさのある支援
 1. 基本的な生活の立直し
 2. 規律性を育てる集団支援
 3. 自己の課題克服を支援
 4. 生活の中の様々な問題を解決する職員の姿勢
 5. 作業を通して、責任感と自律性を養う

○生活指導の基本的な考え

1. 良好な児童集団を形成するには、一部の子どもによる圧力やいじめは許されず、各職員は毅然とした取り組みを行う。
2. 児童集団が向上しようとする雰囲気を持てるように配慮していく。逆に雰囲気を下げるような行動や態度、ルール違反には毅然とした態度で対応する。その際は職員間の連携も図ること。

○生活していく中での留意事項

1. 返事・挨拶をはっきりする。
2. 丁寧な話し方を意識させる。
3. 間違ったことや失敗はきちんと謝る。
4. 服装の乱れに注意する。
5. 職員の指示や注意は素直に聞く。
6. 横柄な態度はとらない。